

格付据え置きのお知らせ

株式会社富山第一銀行(頭取 野村 充)は、このたび株式会社日本格付研究所(JCR)より、以下のとおり格付を据え置く旨の通知を受けましたのでお知らせいたします。

1. 格付機関 : 株式会社日本格付研究所(JCR)
2. 格付 : 『A』(シングルAフラット)
3. 格付の見通し: 『安定的』
4. 格付の対象 : 長期発行体格付
5. 格付の主な評価理由
 - (1) 富山県に本店を置く資金量約1.3兆円の第二地方銀行。格付は、地元金融マーケットにおける一定のプレゼンス、充実した自己資本、格付対比で高い収益力などを反映している。貸出金利回りへの下押し圧力が続いているが、フィービジネスの増強や業務効率化などの取り組みに成果がみられる。このため、当面一定の収益力を維持可能とJCRは見込んでいる。有価証券運用にかかるリスクは管理可能な範囲内で推移するとみているが、今後も動向をフォローしていく。
 - (2) 23/3期上半期のコア業務純益(投資信託解約損益を除く、以下同じ)は38億円。前年同期比約3割の増益となり、ROA(コア業務純益ベース、年率換算)は約0.5%まで上昇した。株式や投資信託等からの利息配当金が増加した寄与が大きい。加えて、注力分野と位置付けるフィービジネスにかかる役務収益が増加しているほか、店舗態勢の見直しなど業務効率化を通じ経費の削減が進んだ。中小企業向け貸出や住宅ローンの残高が増加し、貸出金利息の減少に歯止めがかかりつつある。フィービジネスの増強や経費の削減に向けた取り組みの成果を一段と拡大していけるか注目していく。
 - (3) 金融再生法開示債権比率は22年9月末で2.81%。コロナ禍や景況感の悪化などを背景に、債務者区分の引き下げが増加したことから従前に比べてやや高い水準にある。資源価格の高騰などによる影響に留意が必要だが、業況の不芳な大口与信先に対して厚めの引当を実施していることなどを踏まえると、与信費用は当面もコア業務純益で十分に吸収可能な範囲にとどまると考えられる。
 - (4) 株式や投資信託、為替リスクを取った外貨建債券など、比較的利回りの高い資産を積み増してきており、有価証券ポートフォリオに占めるこれらの構成比が高い。価格変動リスクが資本対比でみて大きいことに留意が必要だが、有価証券のリスクは含み益や資本の水準に照らして管理可能な範囲内にあるとJCRはみている。
 - (5) 一般貸倒引当金などを調整後の連結コア資本比率は22年9月末で11%台半ばであり、Aレンジの地域銀行の中で上位にある。貸出金残高増によりリスクアセットが増加し、コア資本比率の低下が続く可能性はあるが、格付対比でみて優位な資本水準を維持可能とJCRはみている。

(担当) 大石 剛・清水 達也

6. 格付据え置きについて
格付据え置きにつきましては、当行の健全性と透明性が適正に評価されたものと考えております。引続き、健全性を維持するとともに地域金融機関としてお客さまの多様なニーズにお応えできるよう努めてまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ先
総合企画部 : 大屋
電話 076-424-1219